

# 第3学年 電気電子工学実験実習報告書

0 共通テーマ (1)

実験日 令和4年4月14日 (木)

班	学生番号	氏名
3	3333	宮崎 永

共同実験者名

共同実験者名

提出日			備考	評価
予定日	MM/DD			
提出日				

## 1 目的

## 2 原理

## 3 方法

### 3.1 実験回路

VSCode の拡張機能の draw.io を用いて RLC 直列回路の実験回路図を作成した。これを図 1 に示す。また、RLC 並列回路の場合の実験回路図を図 2 に示す。

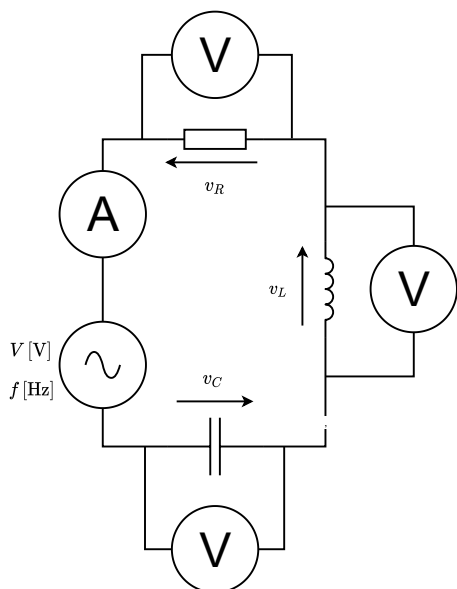


図 1: RLC 直列回路

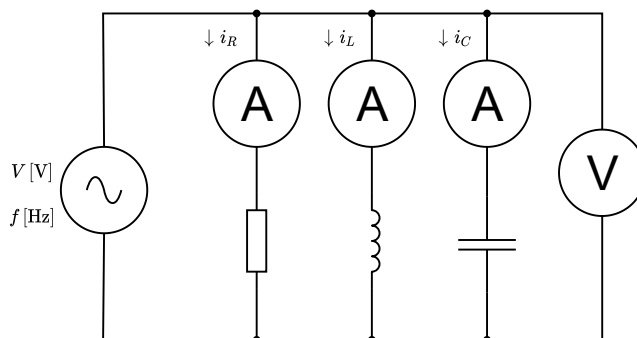


図 2: RLC 並列回路

### 3.2 実験手順

図 1 及び図 2 の回路を用いて、電圧源の周波数を変化させ、素子の端子電圧と電流を測定する実験を行った。以下にその手順を示す。なお、RLC 直列回路の抵抗は  $10\Omega$ 、インダクタは  $100\text{mH}$ 、キャパシタ  $0.1\mu\text{F}$  の物を使用した。RLC 並列回路の抵抗は  $10\Omega$ 、インダクタは  $10\mu\text{H}$ 、キャパシタ  $47\mu\text{F}$  の物を使用した。

#### 3.2.1 RLC 直列回路の実験手順

- 1) 電源から正弦波交流を出力し、電圧のピーク値を  $20\text{V}$  に設定する。
- 2) 電源の周波数を  $500\text{Hz}$  から  $3.5\text{kHz}$  まで  $200\text{Hz}$  刻みで変化させ、それぞれ各箇所の電圧計と電流計を読み取って記録する。

#### 3.2.2 RLC 並列回路の実験手順

- 1) 電源から正弦波交流を出力し、電圧のピーク値を  $20\text{V}$  に設定する。
- 2) 電源の周波数を  $1\text{kHz}$  から  $15\text{kHz}$  まで  $1\text{kHz}$  刻みで変化させ、それぞれ各箇所の電圧計と電流計を読み取って記録する。

## 4 結果

### 4.1 RLC 直列回路の実験結果

3.2.1 で行った実験の結果を整理し、インピーダンス及び偏角を算出した。算出に用いた式を以下に示す。

$$|Z| = \sqrt{R^2 + \left(wL - \frac{1}{wC}\right)^2} \quad (1)$$

$$\phi = \arctan\left(\frac{wL - \frac{1}{wC}}{R}\right) \quad (2)$$

また、算出した値をグラフにしたものをそれぞれ図3と図4に示す。さらに、インピーダンスの軌跡を複素平面に描画したものを図5に示す。

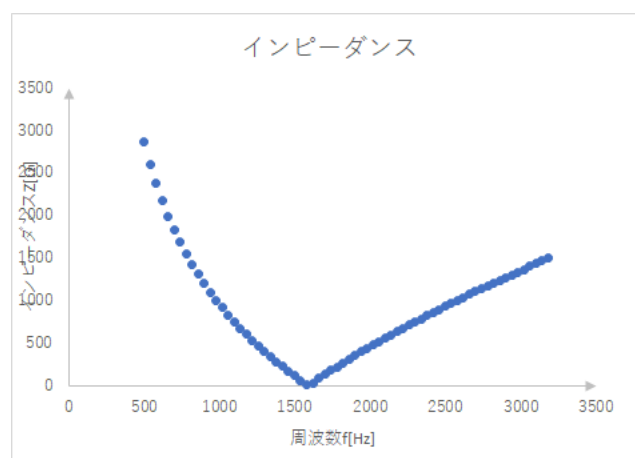


図 3: RLC 直列回路のインピーダンス

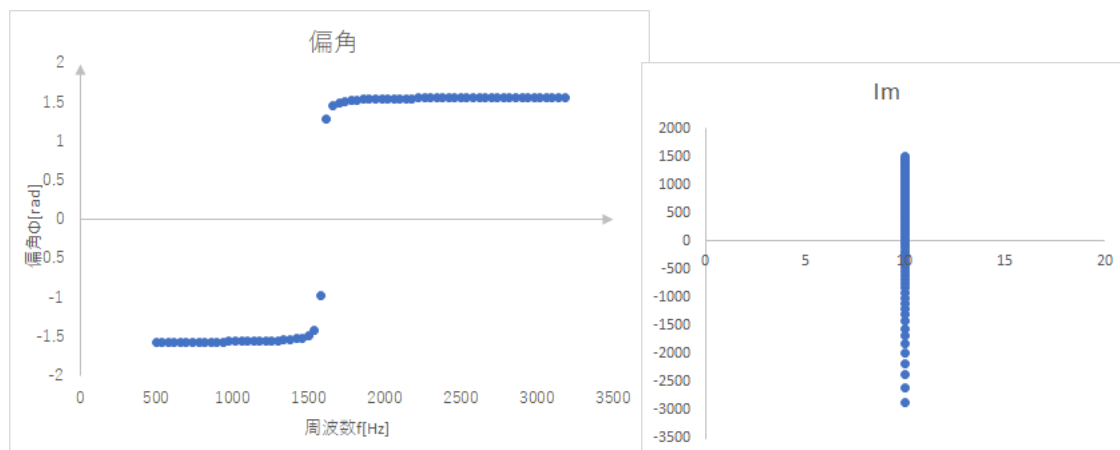


図 4: RLC 直列回路の偏角

図 5: RLC 直列回路のインピーダンスの軌跡

## 4.2 RLC 並列回路の実験結果

3.2.2 で行った実験の結果を整理し、インピーダンス及び偏角を算出した。算出に用いた式を以下に示す。

$$|Z| = \frac{1}{\sqrt{\frac{1}{R^2} + \left(\frac{1}{wL} - wC\right)^2}} \quad (3)$$

$$\phi = \arctan \left( R \left( \frac{1}{wL} - wC \right) \right) \quad (4)$$

また、算出した値をグラフにしたものをそれぞれ図 6 と図 7 に示す。さらに、インピーダンスの軌跡を複素平面に描画したものを図 8 に示す。

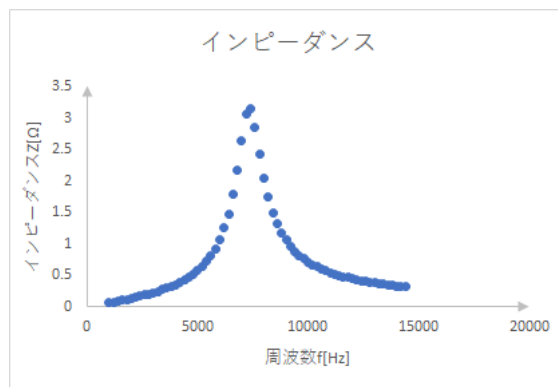


図 6: RLC 並列回路のインピーダンス

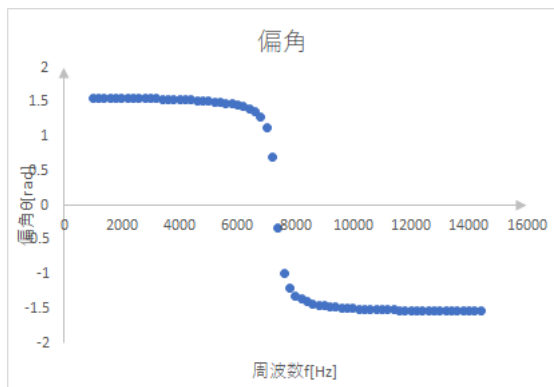


図 7: RLC 並列回路の偏角

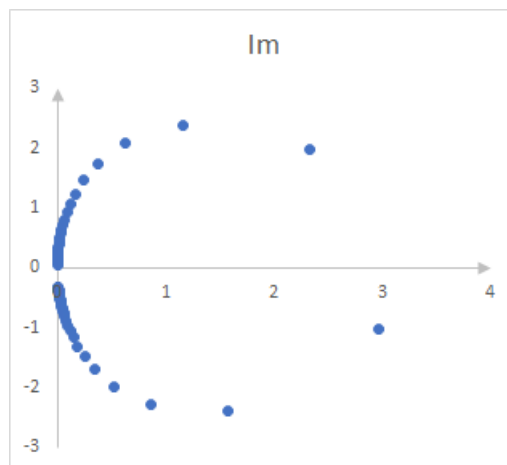


図 8: RLC 並列回路のインピーダンスの軌跡

## 5 考察

### 5.1 RLC 直列回路の考察

5.1.1 特定の周波数 (共振周波数) においてインピーダンスが最小になることを式を用いて説明せよ

5.1.2 1 の定数  $R$  を変更したときにインピーダンスの値がどうなるか説明せよ

### 5.2 RLC 並列回路の考察

5.2.1 特定の周波数 (共振周波数) においてインピーダンスが最大になることを式を用いて説明せよ

5.2.2 2 の定数  $R$  を変更したときにインピーダンスの値がどうなるか説明せよ

### 5.3 課題の答えと狙い

共振する現象を原理から理解することで、実際に回路を組んで応用するときには有効である。定数の変更などは自分の思い通りに設計する第一歩となりえる。

## 6 結論